

# 薬剤耐性（AMR）対策 日本医師会の取組

公益社団法人 日本医師会

## 日本医師会について

医師約16万7千人の会員を有する学術専門団体です。

1916年に北里柴三郎らによって設立され、1947年には社団法人として、また、2013年には公益社団法人として認められました。

日本医師会の行う事業は、医道の高揚、医学教育の向上、医学と関連科学との総合進歩、医師の生涯教育などを含む幅広いものです。

国民が安心して健康に暮らすことを目的にさまざまな活動・提言を行っています。

国民向けの広報活動として、本会の施策、事業の理解を深めてもらうため、機関誌の配付の他に、健康セミナー、講演会、テレビ、ポスター、小冊子など様々な企画を立て、国民医療の向上、健康管理意識の向上を目指しています。

# 薬剤耐性（AMR）対策 日本医師会の取組

## 啓発資料など

### 院内感染対策指針のモデル 2007年10月

平成19年4月1日、各医療機関において「院内感染対策のための指針」を文書化して備えることが義務付けられた。「指針」作成時の参考に資することを目的とした、病院内向け、有床診療所向け、無床診療所向けの具体的な三つのモデルを作成した。

**『抗菌薬は、不適正に用いると、耐性株を生み出したり、耐性株を選択残存させる危険性があるので、対象微生物を考慮し、投与期間は可能な限り短くする。』**

### 日本医師会雑誌

月1回発行、全会員に配付。年2回特別号を発行（発行部数約17万部）

1997年6月 特集「新興・再興感染症—逆襲微生物といかに戦うか」

2002年2月 特集「院内感染対策をめぐって」

2008年6月 特集「抗菌薬の使用と耐性菌への対応」

2012年8月 特集「外来診療における正しい抗菌薬の使用」

2014年10月 特別号「感染症診療update」

# 薬剤耐性（AMR）対策 日本医師会の取組

2008年6月 特集「抗菌薬の使用と耐性菌への対応」

**日本医師会雑誌** 平成20年6月 第137巻・第3号  
THE JOURNAL OF THE JAPAN MEDICAL ASSOCIATION

特集 **抗菌薬の使用と耐性菌への対応**

**座談会 抗菌薬を賢く使う**  
一般臨床医によく使われる抗菌薬の特徴  
外来での抗菌薬の使用を考える  
高齢者への抗菌薬の使用を考える  
妊婦と抗菌薬の使用を考える  
小児の発熱と抗菌薬の使用を考える  
抗菌薬と耐性菌の歴史  
院内の抗菌薬使用プログラムは有効か  
【耐性菌への対応方法】  
ペニシリン耐性肺炎球菌  
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
多剤耐性グラム陰性桿菌 ほか

医療係争事例から学ぶ  
■うつ病の悪化による自殺 ■鼓膜切開後、耳垢除去後の鼓膜穿孔  
各科臨床のトピックス 癌の分子イメージング  
知っておくべき新しい診療理念 代理懐胎  
地域医師会の話題 【長崎県】長崎県医師会の活動

**日本医師会雑誌**  
THE JOURNAL OF THE JAPAN MEDICAL ASSOCIATION

**8** 第141巻・第5号  
2012 平成24年

特集 **外来診療における正しい抗菌薬の使用**

【座談会】外来診療における抗菌薬の使用  
外来治療の可能な感染症  
外来診療で使用する抗菌薬と適正使用  
上気道感染症と適正抗菌薬使用  
小児の中耳炎・副鼻腔炎  
小児・成人の百日咳の治療  
成人における市中感染肺炎と抗菌薬治療  
消化管感染症と抗菌薬  
尿路感染症  
皮膚・軟部組織感染症  
性感染症と抗菌薬治療  
動物咬傷による感染症の治療 ほか

◆各科臨床のトピックス 単孔式内視鏡手術  
◆新薬紹介 ミラベグロン  
◆画像診断セーフティマネジメント MRIで前立腺がんと間違えやすい良性疾患

2012年8月 特集「外来診療における正しい抗菌薬の使用」



# 薬剤耐性 (AMR) 対策 日本医師会の取組



2014年10月 特別号「感染症診療update」  
ページ数 424p

## 目次

### カラー口絵

臨床現場で有用な染色手技(グラム染色, 他) … 忽那賢志, 笠原 敬, 山本 剛 3

序 …………… 横倉義武 17

監修・編集のこぼれ …………… 河野 茂, 跡見 裕 18

監修・編集・執筆者紹介 …………… 24

略語 …………… 28

### I 章 感染症診療の現在

A. 世界的な感染症の動向 …………… 大曲貴夫 30

B. わが国における感染症の動向 …………… 賀来清夫 31

C. 医療関連感染対策 …………… 満田年宏 35

D. ワクチンによる感染予防 …………… 庵原俊昭 40

E. 感染症診療の基本的な考え方 …………… 青木 真 45

F. 日常診療で活用可能な感染症の迅速検査 …………… 細川直登 48

G. 抗菌薬適正使用 …………… 具 芳明 52

H. 現在問題となっている耐性菌

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) …………… 松本哲哉 55

ペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) …………… 笠原 敬, 小松祐子 57

バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) …………… 池 康嘉 59

多剤耐性淋菌 …………… 岩破一博 61

多剤耐性緑膿菌 (MDRP) …………… 切替照雄 63

$\beta$ -ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性 (BLNAR) インフルエンザ菌 …………… 石和田稔彦 65

基質特異性拡張型 $\beta$ -ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌 …………… 石井良和 67

メタロ- $\beta$ -ラクタマーゼ (MBL) 産生菌 …………… 荒川宜親 69

多剤耐性アシネトバクター (MDRA) …………… 高田 徹 72

マクロライド耐性マイコプラズマ …………… 諸角美由紀 74

# 薬剤耐性（AMR）対策 日本医師会の取組

## ワンヘルスの取組

### 日本獣医師会との連携シンポジウム

世界医師会と世界獣医学協会が覚書を2012年10月に締結し、わが国においても、獣医師と医師との連携ならびに協力体制を強固なものとし、安全で安心な社会の構築に向け、2013年11月20日に日本獣医師会と日本医師会は学術協力の推進のための協定書を締結した。

2014年10月以降、現在までに連携シンポジウムを4回開催。

### 人と動物の一つの衛生を目指すシンポジウム

～人獣共通感染症と薬剤耐性菌～ 2016年3月20日

主催：厚生労働省

共催：日本医師会、日本獣医師会等 於：日本医師会館

### 第2回世界獣医師会・世界医師会“One Health”に関する国際会議

2016年11月10日、11日

# 人と動物の一つの衛生を目指すシンポジウムについて

## —人獣共通感染症と薬剤耐性菌—

日時：平成28年3月20日（日） 14時から18時  
開催場所：日本医師会大講堂（東京都文京区本駒込2-28-16）

### プログラム（予定）

#### 14:00～14:20【開会挨拶】

厚生労働大臣 塩崎 恭久	公益社団法人日本医師会長 横倉 義武
農林水産大臣 森山 裕	公益社団法人日本獣医師会長 藏内 勇夫

#### 14:20～15:20【講演1】

座長：国立医薬品食品衛生研究所安全情報部 部長 春日 文子

「WHOによるONE HEALTHに基づくAMR対策への取組について」	WHO西太平洋地域事務局(WPRO) 事業統括部長 葛西 健
「日本医師会及び日本獣医師会の連携と貢献について」	公益社団法人日本医師会 常任理事 小森 貴
「人と動物の共通感染症に関する取組について」	公益社団法人日本獣医師会 副会長 酒井 健夫

#### 15:20～16:10【講演2】

座長：国立感染症研究所 所長 倉根 一郎	
「ONE HEALTHとは」	北海道大学大学院獣医学研究科 教授 迫田 義博
「国内における医学獣医学の連携及びAMR対策について」	厚生労働省／農林水産省

#### 16:10～16:25【休憩】

#### 16:25～17:45【講演3】

座長：国立国際医療研究センター国際感染症センター センター長 大曲 貴夫

「医療分野において問題となる感染症や抗菌薬などの適正使用や教育プログラムについて」	東北大学病院総合感染症科 講師 具 芳明
「食用動物由来耐性菌の現状とリスク管理」	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野食品衛生学 教授 田村 豊

#### 17:45～18:00【閉会挨拶】





ホーム  
Home

主催者代表挨拶  
Messages

開催概要  
About

プログラム  
Program

参加者へのご案内  
Information

参加登録  
Entry

ご宿泊  
Stay

# 第2回世界獣医師会 - 世界医師会 “One Health”に関する国際会議

～ “One Health” 概念から実践へ～

会期 2016年 11/10(木) 11(金)

会場 リーガロイヤルホテル小倉

主催者  
代表

Dr. René Carlson 世界獣医師会会長

Sir Michael Marmot 世界医師会会長

横倉義武 日本医師会会長

藏内勇夫 日本獣医師会会長